（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年　12月　7日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600420		
法人名	医療法人社団延山会		
事業所名	グループホーム　ＣｏＣｏすみかわ		
所在地	苫小牧市澄川町７丁目６番１５号 （電　話）0144-67-3111		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年1月24日

【情報提供票より】（平成20　　年11　月1　日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)１２年５月１８日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6　人
職員数	12 人	常勤　4 人，　非常勤 8人，　常勤換算4.7人	

（２）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1階建ての　1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,000～46,500 円		その他の経費（月額）	光熱水費：家賃に含む
敷　金	有（　円）　(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1月当たり　円			

（４）利用者の概要（　１１　月　１　日現在　）

利用者人数		6 名	男性　名	女性	6 名
要介護１		名	要介護２		名
要介護３		1 名	要介護４		3 名
要介護５		2 名	要支援２		名
年齢	平均	88.6 歳	最低　81 歳	最高	95 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団延山会　苫小牧澄川病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームＣｏＣｏすみかわ」は介護保険制度の開始と共に道からの働きかけにより、苫小牧市で第１号のグループホームとして設立された。苫小牧郊外の自然豊かな住宅地に位置し、同一法人に澄川病院や介護老人保健施設、院内保育所があり、それぞれの施設と連携が深められており、行事やサークル活動など多岐にわたり交流する機会が設けられている。病院の併設により、医療面においても家族や利用者の安心に繋がっている。職員は、利用者を常に人生の先輩と考え、関わりを大切に尊厳を持って接し、ケアサービスの向上を目指して熱心に日々の仕事に取り組んでいる。利用者も、家庭的な雰囲気の中、自力で出来る事に取り組みながら前向きな生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回取り組みとされた、地域住民と接する機会を多くし事業所の理解を深める事については、可能な限り散歩を多く取り入れる事により地域の理解が深まりつつある。職員の定期的な研修参加も計画的に継続されており、全職員の質の向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は、職員全員に記入して貰いホーム長がまとめ上げ、その後職員会議で確認を行って作成している。管理者やホーム長は、自己評価の理解度や分析力に差がある事や個々の思いの違いを感じ取る契機となっている。職員は、日々のケアの振り返りや初心に返る意味で有意義だったと捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議には、協力医療機関、協力老人保健施設、家族、町内会（会長・福祉部長）、民生委員、地域包括支援センター、苫小牧市などのそれぞれの関係者が参加し、外部評価、行事報告、苦情・事故発生状況、職員研修参加報告、防災訓練、地域の状況情報交換などを議題に上げ、意見を貰う場として有意義に活用し、サービスの向上に役立てられている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	法人施設全体の意見箱を病院の窓口に設置し、気軽に意見や要望が提出出来るように配慮している。家族の来訪時や介護計画作成時などに会話をする事により、家族の意見や不満を積極的に引き出すよう努力している。出された意見は貴重な資源と考え、全職員で共有して運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	開設当初より町内会に加入し、町内のお祭りのイベントに利用者が浴衣を着て参加したり、昨年まで開催された文化祭に出展したり、見学に行ったり等、地域との交流に努めている。地域のボランティアを活用して、大正琴やフラダンスの人を招いたり、同一法人の介護老人保健施設を訪問したり、また小学校の器楽クラブの発表会などの見学に行ったりして、子供との交流も深めている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より職員と一緒に作りあげた、地域との関わりを保ちながら、安らぎのある生活を支える基本理念と、心のふれあいを大切にする項目などを掲げた介護理念など事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のコピーを各職員に配布すると共に、事務所や正面玄関などに掲示している。毎月のカンファレンスや２ヶ月毎の勉強会、自己評価時などに理念について話し合う機会を設け、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に加入し、町内のお祭りのイベントなどに参加している。地域のボランティアを活用し、大正琴やフラダンスの人を招いたり、併設の介護老人保健施設を訪問したり、また小学校の器楽クラブの発表会などを見学に行ったりして、子供との交流も深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員に記入して貰いホーム長がまとめ上げ、その後職員で確認を行って作成している。管理者やホーム長は、自己評価の理解度や分析力に差がある事や個々の思いの違いを感じ取る契機となっている。職員は、日々のケアの振り返りや初心に返る意味で有意義だったと捉えている。	○	自己評価表の理解度や分析力に職員間に差があるとの事なので、自己評価の意義と内容の理解を深める勉強会などを開催し、職員間の格差をなくすよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、それぞれの併設施設の代表や家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター長、職員が参加し､外部評価、行事報告、苦情・事故発生状況、職員研修報告などを議題に上げ、情報交換や意見を貰う場として有意義に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の方から市役所へ訪問する事は少ないが、運営推進会議への出席や相談事がある時は随時市の担当者が来訪して話し合いをするなど、市町村との連携が深められている。苫小牧グループホーム連絡協議会においても市担当者との交流の場が設けられている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	３ヶ月毎にホーム便りを発行し、事業所の様子や運営推進会議の報告、職員の異動、行事予定や報告など、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。家族の来訪時には、利用者の様子を話したり、体調変化がある時などは、随時看護師が電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人施設全体の意見箱を病院の窓口に設置し、気軽に意見や要望が提出出来るように配慮している。家族の来訪時などに積極的に話しかけ、意見や不満を引き出すように努力している。出された意見は貴重な資源と考え、全職員で共有して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、基本的には行われていない。退職等で職員が代わる時は、前任者と後任者が１～２週間重複して勤務を行い、利用者にダメージを与える事なく穏やかに移行出来るよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて外部研修が行われている。内部研修も各併設施設の代表者による、口腔ケア委員会、抑制廃止委員会などが設置されており、口腔ケアや新人職員向けの研修など月に２～３回行われている。内外研修の受講状況は職員別に記録する事により、段階的な研修受講に役立てられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧介護者を考える会、ケアマネージャー連絡会、高齢者等の地域ケアを進める会などに加入して、研修会や勉強会において交流を行っている。グループホーム連絡協議会にも加入し、研修会後の懇親会に一般職員も参加し、同業者との交流を図っている。	○	一般職員の同業者との交流が、研修会後の懇親会のみになっているので、他のグループホームとの相互訪問などによる交流を深め、サービスの質の向上に役立てられるよう期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や可能な限り本人に来訪して貰うようにしているが、本人の来訪が難しい時は、介護計画作成担当者が面会して本人と馴染みの関係が出来るように配慮している。併設の介護老人保健施設から入居する時などは、事業所に遊びに来て貰ったりして、スムーズに入居出来るように工夫している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から料理の作り方や他人への気遣い、さり気ない言葉など日々の生活の中で学んでいる。「すまないね」などと気遣いの言葉を貰う事により精神面でも支えられていると感じている。利用者との触れ合いを大切にしながら、自力で行える事はやって貰い見守るなど、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴を聞いたり、本人の行動や表情、職員が言葉がけした時の利用者の反応などを見て、思いや意向を汲み取るように配慮している。日常生活の中でも、飲み物の種類や温かい物、冷たい物など、利用者の意向を出来る範囲で確認するよう配慮している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴など家族の情報、職員の情報をもとにセンター方式で評価し、担当医師とも相談しながら、カンファレンスにかけて、計画作成担当者が計画を作成する。家族が来訪した際に説明し、意見を聞いて、必要ならば修正をして実行計画とする。家族への説明の際に可能であれば本人も同席する。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月のカンファレンスで検討し、必要ならば見直しをする。定期の見直しの他にも、入･退院があったときは追加プランを作成し、食事その他の機能低下があった時などに随時見直しを行い、現状に即した計画としている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院および介護老人保健施設と併設で緊密な連携関係にあるため、その機能を生かして入院回避、リハビリ設備の利用、リフト付き車輌による送迎、医療相談など、多彩なサービスを提供している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族は、可能な限り協力病院の受診を希望する。協力病院以外での受診は原則として家族対応になっているが、その場合でも事業所の看護師が同行し、先方の医師と連携を取り、情報交換しながら適切な介護の維持に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に看取りに関する指針を設けて入居の際に確認を得ており、その後の状況に応じて随時話し合いをしている。看取りの希望があれば応じる用意はあるが、これまでのところその事例はない。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の会話や接遇で利用者の誇りやプライバシーを損なう事のないよう、職員同士注意し合っており、排泄の際の言葉がけ、職員同士の私語などには特に注意をしている。記録類は事務所と併設病院とに保管場所を定めて機密保持に万全を期している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な生活時間を決めてはいるが、本人の自由にしている。希望にそった支援を心がけているが、認知症がかなり進んでいて、自分から希望を表明することが少なく、職員の判断で支援することもある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼は栄養士の献立であるが、朝と晩は職員ができるだけ利用者の好みを取り入れながら独自の献立を考えている。機能の低下が進んでいるため、できる仕事は少ないが、せめて箸や食器を自分で手に持つことによって食欲を引き出すように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回、午後が入浴時間で、各人週に2～3回入浴できるようにしている。利用者から希望されることはほとんどなく、職員の計画で入浴日を決めているが、希望があれば応じている。異性介助は本人の意向を確認して行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵本読み、ぬいぐるみや人形遊び、折り紙、花札、民謡などを楽しんでいる。一人ひとりの楽しみを探し出す努力をしながら働きかけている。ひとり静かに過ごしたい時にはその希望を尊重し、集団のゲームや掛け声に合わせるような遊びに無理に誘うことはしない。		
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏に雨が多い土地柄で、散歩の機会は少ないが、近隣の散歩、受診の機会を利用しての散歩、花見、買い物、外食など、出来るだけ外出の機会を多くするよう心がけている。冬は併設事業所の行事に出向いたりもするが、閉じこもりがちである。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵をかけていない。外出の気配があれば説得し、それでも出るときは後をついて出る、あるいは車で先回りして偶然を装って出会い、連れ帰る、などの工夫で安全を期している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の対応マニュアル、役割分担は整備されている。非難等の訓練は併設事業所と合同で、年に2回、独自の訓練を年に1回、時に消防署の協力を得て実施している。通報、避難、初期消火、救出救護の訓練を行う。夜間想定も行っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量は日誌に記録しており、不足があればエンシュア、ゼリー、ジュース、牛乳、時に点滴などで補充して必要量を確保している。栄養バランスは併設病院および食材納入業者の管理栄養士が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースがゆったり取ってあり、明るく清潔で、花や人形などの装飾、古いミシンやオルガン、家具調度など、暖かく落ち着いたたたずまいになっている。クリスマスツリー、節句の飾り物など季節を演出する配慮も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室に洗面台が設置され、整理整頓が行き届いている。思い思いの家具、仏壇などが持ち込まれ、人形、花、写真などが飾られて暖かみの感じられる部屋もあるが、中に空白が多く、生活感の乏しい部屋もある。	○	寝るとき以外居室にこもることが少ないとはいいながら、やはり精神的に落ち着ける雰囲気も大切と思われるので、家族と相談しながら、寂しくない程度の調度や装飾の工夫を期待したい。

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。